
仮面ライダーモドキ

Buravo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーモドキ

【Nコード】

N5505U

【作者名】

Buravo

【あらすじ】

仮面ライダーっぽいモドキさんが化け物と戦う短編小説

(前書き)

残酷な描写？が出てきます。

血と肉という文字が出てきます。

嫌な予感がした方は申し訳ありませんが、
お戻りくださいますようお願いします。

ボクは昔、仮面ライダーに憧れていた。

カッコいい変身ポーズ、悪に立ち向かい血湧き肉踊る戦いを繰り広げる姿。

そして、なんといってもド派手でクールな必殺技！

ボクはそんな彼らの姿に憧れた。

だから・・・

騒がしい街の中、顔色が悪い男がふらふらと歩いていく。

そんな顔色の悪い男を心配するみたいにその男とすれ違った人たちは横目で見てはそのまま先へ行く。

偶々、そんな男を心配してか声が掛かった。

「おい、アンタそんな顔色で大丈夫か？」

余程の善人であつたのだろう。

他人に優しくすることはいいことだ。

だが、その優しさ故に声を掛けた女性はこの世から消えることになる。

「・・・ウ、ア・・・ア・・・」

女性は異変に気がついた。

悔やむべくは異変に気がつくのが遅かったことである。

「ウガアアアアアアアアアアアア！！！！」

「え」

男は突然爆発した。

「・・・え」

女性は恐怖した。

男が爆発したあとから

鰻の様な胴体をし、カエルの様な緑色の手足を生やした化け物が出てきた。

「ん？おい f s なぼん b f j かん b ; g j だ」

「ひッ・・・」

ごくりと女性は化け物に飲み込まれた。

騒がしい街が一瞬で静まった。

それもそうだ。

街のド真ん中で、人が爆発し、化け物が現れ、人が化け物に飲み込まれた。

誰だって頭の中が真っ白になる。

だが、それは”一般人”だったらの話だ。

「のら b ん j f j ないおじえ f ; l ? あ h ふおいぼ」

化け物が歩く。わけのわからない鳴き声を喚き散らしながら、人ごみに向かって。

そんな化け物に”独り”の青年が立ち塞がる。

「・・・お前にどんな理由があってそんな姿になったのかは知らないけれど」

化け物は泣き喚く。子供がだだをこねるみたいに。

「ここで消えてもらおうッ！」

青年は叫んだ、

「・・・変身ッ！！」

ボクは憧れた。

どんな対価を支払わなくてはならなくても。

ボクは成りたかった。

そのときのボクはまだ子供だった。

失うということがどういふことか理解出来ない子供。

現実は厳しかった。

ご近所さんに狂った科学者なんていなかったし、

実は父親が仮面ライダーでボクが受け継ぐことになるとか、正義の組織がボクのことを見込んでスカウトしてくれるみたいな展開もない。

誘拐に遭った。

家族と一緒に海へ行くはずだった。

この誘拐でボクの人生は180°変わることに成る。

改造。

そう、改造である。

悪の秘密結社に拉致され改造人間という”人外”にされてしまった。それがボクだ。

家族丸ごと誘拐され改造されて成功したのがボクだったらしい。らしいというのも、実は良く分からないからだ。

目を開ければ半壊した廃墟、薄暗い森の中に居たからだ。

「lぎぎほ；じよいひうyvytcg,h」

拳が視界に迫り来るたびに冷や汗をかく。

いつまでたっても慣れない。

「ぐいあおのいえなおbなぐいwgふゃぎいいいいいい
「ツツツ!!!」

避けッ切れない!!!ならば!

「受け流すことおおお柳の如くうううう!!!」

迫り来る化け物の拳を受け流し、

「にらbんあういhbふいおあ?!!」

動揺。

それは一瞬の隙であり、この戦いの”終わり”の”始まり”である。

「もらったあああああ!!!」

「なごりんほいあrんjんjなお!」

「攻めることおおお烈火の如くうううううう!!!」

殴る。殴る殴る殴る殴る。

武器など無い。

己の拳こそが武器。

「ん・あ・ふぁえ・・・gなk1んご」

血まみれの化け物に血まみれな拳をもつボク。

何も感じない。

「極めることおおおおお」

青年の拳が輝き始め

「煌めきの如くうううううううう!!!」

その拳が化け物に突き刺さる。

瞬間、爆発。

化け物の体が膨れ上がり、周囲に血と肉をまき散らす。

「聳え立つこと・・・英雄の如し・・・」

化け物の血と肉に塗れた青年は静かにそう言った。

いつも通り化け物を退治した。そういつも通り。

「き、君は・・・一体・・・」

周囲がボクを恐れているのも、いつも通り。

誰かに褒められて欲しくてこんなことをしている訳でもない。

憎い。

自分をこうした、得体の知れない相手が憎い。

ゆえにボクは戦い、探す。

ボクをこうした相手を殺意を持って拳を突き刺すまで。

（後書き）

決め台詞ってカッコいいですね。

ただ其のために書いてみました。

初めて書くものですので、わけがわからない描写もあるかと思ひます。

それでもこの小説を選んで読んでくれてありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5505u/>

仮面ライダーモドキ

2011年10月9日09時48分発行